

山形県保健師長会ニュースレター

令和3年2月22日 第21号 発行：山形県保健師長会

春寒の候 会員の皆様には新型コロナの対応で大変な日々をお過ごしのことと存じます。新型コロナウイルスワクチン接種はこれまで誰も経験したことのない大事業です。山形県保健師長会のチームワークで乗り越えていきましょう。

現在国では、平成24年以来9年ぶりとなる「地域保健対策の推進に関する基本的な指針」の改定が、4月1日からの適応を目指して進められております。その中で人材育成を担う保健師等職員の養成も含めた感染症対策を明記する方針だそうです。この改正はもちろん新型コロナウイルス感染症の拡大を受けたものですが、保健師がこのように注目を浴び、増員に向けた動きが活発化されたことは、これまでなかったかと思えます。今、このコロナ対応により現場はピンチですが、保健師増員等のチャンスでもあります。10年先を見据え、今なすべきことを皆さんと一緒に考えたいと思っております。メール等でご意見を頂ければ幸いです。

(記:会長 伊藤京子)



全国保健師長会

シンボルフラワーのタイムです。

花言葉…行動力、勇気、活動的、大きな望み

「令和2年度全国保健師長研修会」に学ぶ

◆健康危機事案発生時のリスクマネジメント

～新型コロナウイルス感染症対策における保健師の役割～

令和元年の年末に国外で肺炎を引き起こす感染症が話題になり…そんなに恐れる必要があるの？と、思っていたのが、R2年1月に国内でも発生し、ジワジワ迫ってきて…2月には各保健所で本格対応開始…3月末に県内でも患者が発生し、引継ぎもできない程に忙しくなってきた…4月の第1波で保健所はてんやわんや…その後しばらくは、さざ波のような発生になり、次の大きな波への備え、宿泊療養の整備…11月に受診方法の変更、わが庄内の大きな波…私個人は、「ああ、リスクマネジメントができていなかった。皆に申し訳ない。」と、思っていたところに、今回の研修資料が届きました。

平常時からリスクに備えて、発生規模や種類に応じた人員体制を考えておき、迅速な初動対応、情報収集・状況把握、分析、評価した上で次に反映…このプロセスの大切さを再認識させられました。

また、住民の方々の日常生活と感染予防、二次的健康リスクの予防、そして自分自身の通常業務との両立をどこまでわかっていたんだろうか、と、長期戦の覚悟も改めて意識しました。自分と仲間の心身の健康を守りながら業務を継続させるには、業務に優先順位をつけ、時には片目をつむって、乗り切れることも大事だということを資料を読みながら、しみじみ感じています。

自然災害を中心とした備えでは、受援のための準備も重要だと認識していたつもりなのに、いざ自分の身になると、応援してほしいけれど、誰にどう伝えて、何をしてもらうのか、まさに研修資料のとおりでした。自分の組織内・市町村の方々・他保健所と、声を出せば応援してくれる人はたくさんいて、また、医療機関をはじめ、関係機関の方々も含め、頼もしい協力者はたくさんいることに、あらためて気づかされました。

第1波とは違い、経済活動などを継続しながらの国の緊急事態宣言、誰も経験したことのない大規模なワクチン接種計画、と、新型コロナの対応は、まだまだ続きます。

「保健師の皆様、少し落ち着いたら、おいしいものを食べながら、『新型コロナの時は大変だったね』と、語り合いたいですね。」…でも、もう少し先のこと…今はまだ、皆で踏ん張っていきましょう！

(記:副会長 渡部 順子)

◆地域包括ケアシステム推進における行政保健師の役割

実践報告：滋賀県・富山市・杵築市

「実践報告①(滋賀県)」について

地域包括ケアシステムの実現に向けた地域マネジメントで、まず大事なことは“どうありたいか”であり、それに向けての具体的な足取りとして、目標と指標を設定して実践することが大事なポイントになることが印象に残りました。

自身の日常を省みると、PDCA サイクルは稼働せず Do! Do! の日々で振り返る余裕もなく評価もせず…の現状に反省しきりです。医療圏を考えると、一つの市町村に限らず少し広げた枠組みでも検討できる機会があればより充実したシステムの構築が見えてくるのかなと思われます。



「実践報告②(富山市)、実践報告③(杵築市)」について

「地域力強化推進事業(わがまち・わがこと・まるごとモデル地域事業)」は、地域で課題を把握して解決を試みる体制の構築支援事業です。当町でもコミュニティ単位で生活上のちょっとした困り事に対するサービスの提供や見守り活動等が始動しており、側面からの支援を行っています。

「包括的相談支援体制」の構築は、介護、障害、貧困等複合化・複雑化した相談を受けるための総合相談体制、庁内会議、他機関会議を持ち、“顔の見える関係”を築きながら支援していく体制づくりの重要性、また各機関の専門性を理解した上で役割分担していくこともまた必要であることを再認識しました。

保健師の役割はコーディネートしていくことと言われ、関わる人材を活かす関わりが求められるところではないでしょうか。

(記：会計監事 佐藤 玲子)



全国保健師長会シンボルマーク

◆中堅保健師のワークエンゲイジメントと保健師の能力開発

実践報告：竹田市・豊田市・青森県

人口規模の小さい町や村では保健師の数が少なく、年齢構成もバラバラなため自分が就職してからかなりの時間が経過してから後輩保健師が採用されることがあります。私自身もちょうど中堅期の中期にさしかかるところに数年ぶりで保健師が採用されました。大学卒業の保健師が増え、自分が就職したところと同じような後輩への指導では不十分であり、自分自身にスキルがないことに悩み、新任期だけでなく中堅期にも人材育成の仕組みが必要と切に感じた時期でした。

今回、全国保健師長会研修会の資料を読み、ワークエンゲイジメントという新しいキーワードに興味を持ちました。ワークエンゲイジメントが高い人は仕事に誇りとやりがいを感じ、熱心に取り組み、仕事から活力を得て、いきいきとしている状態にあると言われていました。求められることが多くなる中堅期にバーンアウトしないような仕組みを組織的に作って行く事が必要と感じました。

実践報告を読んで……地域診断、地区組織活動など行政中堅期保健師実践能力尺度の開発調査で得点が低かった項目について、組織的に取り組んでおり、まさに人材育成へ繋がっていると感じました。皆さんの熱心な取り組みに自分たちもやらなければと刺激を受けました。

新型コロナ感染症対策や災害等への対応と、通常業務に加えて健康危機管理への対応が多い日々を送っています。そのような中でも他自治体の保健師の皆さんの活動を知り、新しい情報を得て、「人を成長させられる組織」を目指していきたいと思います。

(記：理事 東村 貴恵)

※《編集後記》※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

今回は書面開催となった「令和2年度全国保健師長研修会」のテーマに沿って、ご感想・ご意見を寄稿して頂きました。長年の経験と実践を踏まえた内容であり、どれも多くの皆様に共感いただけたのではないのでしょうか。

例年であれば新年度の総会に向け動き出す時期ではありますが、ワクチン接種も含めたコロナ対応の状況を踏まえて検討したいと思っております。総会について皆様方へのご案内は例年より遅くなることを御理解いただきますようお願いいたします。

何よりも自分の健康第一でこの大波を乗り越えましょう。コロナが1日も早く終息しますように♪♪♪♪♪ (役員一同)